令和6年度　多摩市立和田中学校　授業改善推進プラン　教科名

音　楽

音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
曲想と音楽の構造などとの関わりを理解し、それらを生かして演奏するために必要な楽典や奏法などを身に付ける。	音楽表現において、音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、どのように歌うかについて、自分の想いや意図をもって表現する。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	ア基本的な記号の読み方や歌唱時の姿勢保持など基礎的な知識技能が定着していない生徒がいる。 イメロディや歌詞等から感じたことについて、文章化したり表現したりすることを苦手とする生徒がいる。	ア授業導入時に繰り返しの発声練習を行う。諸記号について楽譜に書き込み、繰り返し確認する機会をつくる。 イロイロノートを活用し、生徒が記述したものを共有し、学び合う機会を作り、感じたことを文章表現する具体的な方法を確認させる。	・通年 ・単元ごと	
第2学年	ア楽典の基礎的な知識が定着していない生徒がいる。技能の基礎は理解できているが、演奏に生かす力が十分でない。 イ楽曲を表現する際、音程やリズムを正確に演奏することで満足し、強弱や曲想を表現することが難しい。	ア楽譜に書き込む習慣を定着させる。技能の基礎を意識して表現ができているか、自分の表現をタブレット端末撮影し、客観的に振り返る機会をつくる。 イ楽譜上の諸記号の意図を考えさせ、どのような表現が必要か意見を出し合う機会を設ける。	・通年 ・単元ごと	
第3学年	ア基礎的な知識・技能は定着しており、その知識を生かして表現しようという姿勢が見られる。成長に伴い、男女ともに高音域の響きに不安定さを訴える生徒が多い。 イ楽譜に書かれていることを意識し、曲に込められた思いや美しさを感じることはできるが、感じたこと等を表現する力が弱い。	ア高音の発声練習を重点的に行う。また、鑑賞教材や仲間の発声とタブレット端末で録音した自分の声を比較し、客観的に振り返る機会をつくる。 イ曲ごとに曲の分析を行い、曲に込められた思いについて意見を出し合う機会を設け、表現方法の幅を広げる。	・通年 ・単元ごと	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
【全学年】ロイロノートに見本演奏や練習用の音源を入れ、自分たちの習熟度に合わせて、主体的に練習を進められるようにする。【重点：個別】 【1学年】 ロイロノートを活用し、他者の演奏や考えを共有しながら学ぶ。【重点：協働】 【2・3年】 ロイロノートを活用し、自分の演奏を個人やグループで客観的に聴き合い学ぶ。【重点：協働】	【全学年】 ・歌唱、器楽、鑑賞、創作など、幅広い活動を行うことで、苦手な分野があっても、積極的に音楽の学習に取り組めるようにする。 ・実技テスト後に、観点ごとの評価を入れたカードを配り、自分の課題を認識するとともに、次のテストに向けての目標設定をさせる。